



## 開会宣言

2017年8月9日午前9時10分、サンディ・ウィマー会長が開会を宣言。

## 出席者

		火曜日
President	Sandi Wiemers	X
Vice President	Jean Patrick Rousset	X
Secretary	Jeff Johnson	X
Treasurer	Paul Rutten	X
Sport Administrator	Moto Tsuchiya	X
各国代表役員：		
Australia	Ainslie Hunt	X
Belgium	Lilianne Comans	
Canada	Joanne Moser	X
Croatia	Marina Milhecic	X
CFMT Czech Republic	Iva Rejlová	X
CMTO Czech Republic	Miluše Vápeníková	X
England	Nicky O'Neill	X
France	Jean Patrick Rousset	X
Germany		
Hungary	Laszlo Vadoc	
India	Santosh Deshmukh	
Ireland	Bernadette Doyne	X
Italy	Stefania Lenzini	X
Japan	Noriko Sugiura	X
Kazakhstan	Alfiya Kalmaganbetova	
Kyrgyzstan	Valeria Kveladze	
Netherlands	Johnny Warnimont for Martin Stevens	X
Norway	Mona Kristiansen	
Philippines	Lily Brackenbury	
Puerto Rico	Sammy Torres	
Russia	Andrey Kokoulin	X
Scotland	Fiona Howat	X
Slovenia	Nada Skuk	X
Spain	Sara Abad	X
Sweden	Amelie Nilsson	X
Switzerland	Sonia Ghibellini	X
USA	Karen Cammer	X

## 会長のあいさつ

2017 年会議参加への謝辞。

### 議題の追加、修正、削除

- 追加：
  - ポリシーマニュアル改訂：選手の国籍
  - IBTF 定款改定

#### ボード動議 #1 – 議題承認

可決

以下を追加し、議題を承認する。  
- ポリシーマニュアル改訂：選手の国籍  
- IBTF 定款改定

発議：カナダ

セカンド：クロアチア

賛成：16 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対：0

棄権：0

## 議事録

#### ボード動議 #2 – 2017 年 冬季会議議事録

可決

2017 年冬季会議議事録朗読を省く。

発議：Ireland

セカンド：Scotland

賛成：16 (Australia, Belgium, Canada, Croatia, England, France, Germany, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Spain, Sweden, USA)

反対：0

棄権：0

欠席：1 (Switzerland)

## 報告

### ETC 報告

パオラ・デ・マルキが ETC の報告を行った。

ETC 議事録は 9 月に配布予定。

#### A トワールと A ペアのバウンダリーラインについて

ETC よりバウンダリーを示すカーペットについて懸念が示された。カーペットは床に接着されていないので、選手がカーペットを踏むと滑る可能性があり危険。ETC よりいくつかの提案を行う。

- 1) カーペットはフロアサイズより少し広めに敷く。
- 2) バウンダリーペナルティは課さない。
- 3) 安全を考慮し、選手はカーペットを踏まない。

SW: カーペットよりテープを使うとの議論もあった。しかし他種目の演技を一日でこなす為貼ったり剥がしたりに時間がかかり、困難。

IRE: 滑るならカーペットは取り外すべきでは？危険を知らながら事故が起これば賠償責任が生じる。

CAN: 危険告知をする事で責任は果たせる。危険を知らながら告知しなければ、賠償責任の対象となる。

PdM: バウンドリー無しでも、他のレーンとの接触の可能性があり危険。その為バウンドリーを定め、ペナルティを課す事とした。

CRO: 角に風船など目に留まりやすいものをつける事は可能。なにも無いよりはまし。

ITA: カーペット使用に賛成。アルメレでは何も問題を感じなかった。

SW: 2013年のカーペットは裏がゴム張りだった為滑らなかった。

### ボード動議 #3 – A トワールと A ペアのバウンドリーペナルティ

可決

2017年インターナショナルカップのA トワール、A ペアのバウンドリーペナルティは課さない。

発議： USA

セカンド： Australia

賛成： : 16 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対： 0

棄権： 0

採決の後、継続審議

JPN: ペナルティに関しては今後再検討が必要。バウンドリーを超えないように仕向けるにはペナルティは必要。

ENG: 大会中フロアにテープを張ったままにしておけば。大会運営のロスタイムも無くなる。

SW: チーム、グループに加え 6 レーンでの演技など、貼ったままにしておくのは必ずしも安全ではない。

ENG: 2017年のインターナショナル大会ではコーナーのみ、テープを張っていた。

### ボード動議 #4 – 動議 #3 の無効

動議却下

動議 #3 を無効とする

発議： Ireland

セカンド： 無し

動議は無効。

### コンパルソリーセット抽選日

従来世界選手権大会で実施されるコンパルソリーセットは、ウィンター会議において抽選されていた。その結果、抽選後はそのセットのみをトレーニングするようになった。ETC は以前実施されていた通りコンパルソリーのセット抽選を 5 月 1 日に戻す事を提案する。

従来通り、男女は別セットを行い、両セットとも資料ビデオとして活用できるようにしておく。

**ボード動議 #5 – コンパルソリーセット抽選日**

**可決**

コンパルソリーセットの抽選日をウィンター会議時から 5 月 1 日に変更する。

発議：USA

セカンド：Ireland

賛成：16 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対：0

棄権：0

**インターナショナルカップ 男性部門**

ETC は今回の IC エントリー数を検討した。現行通り、男女は別部門を維持すべき。しかし、多くの男性部門はかなり小さく、競技性も低い。ETC は男子シニア部門とアダルト部門の統合を提案する。男子ジュニア（12～17 歳）、男子シニア（18 歳以上）の 2 部門とする。

ENG: 男性部門の普及は重要。

IRE: その年のエントリー数の増減に関係なく、シニアとアダルトを統合させるのか？

PdM: エントリー数に関係なく統合させる。女子ジュニアは(12-17)、シニア (18-21)、アダルト (22+)の年齢別部門。男性はジュニア (12-17)、シニア (18+)とする。

**ボード動議 #6 – 男性シニア及びアダルト部門**

**可決**

カップ大会において、男性シニアとアダルト部門を統合する。その他の部門（女子ジュニア、女子シニア、女子アダルト、男子ジュニア）の変更はない。

有効期日：2017 年 9 月 1 日

発議：Sweden

セカンド：Italy

賛成：16 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対：0

棄権：0

**今後のプロジェクト**

コーチプログラム構築を継続して行う。

2018 年世界選手権大会より審査員選考を行う。

2018 年ウィンター会議は多くの人にとって遠方となる為、2018 年 1 月のウィンター会議ではテクニカルアドバイザー会議は行わず、継続して ETC 会議のみを行う。ETC からテクニカルアドバイザーに対しては、随時情報を発信する。

JPR: 2018WC の大会審査員選考はいつ行うのか?

PdM: 選考試験を準備し、審査員は試験を受け、評価結果に基づき選考される。4月か5月頃には審査員を決定する。

ENG/FRA: フライト予約もあり、その時期では遅すぎる。

PdM: ジャッキーと再度スケジュール調整を行い、選考時期を早める。

ENG: もし ETC 会議に TA を参席させたい場合、可能か?

PdM: いいえ。

#### ボード動議#7 – ウィンターテクニカル会議

可決

2018年ウィンター会議においてはテクニカル及びジャッジ会議は行わず、ETC 会議のみとする。

発議: Croatia

セカンド: Italy

賛成: 12 (Australia, Canada, Croatia, France, Italy, Japan, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland)

反対: 3 (England, Ireland, USA)

棄権: 1 (Netherlands)

#### ETC の役割と機能について

ETC の役割と機能について審議した。ETC は連合が必要となるテクニカル関連の業務を行うため選出される。但し、ETC、テクニカルアドバイザー、ジャッジコミッティ間での業務バランスの維持に苦慮している。

どのようにして提案事項を提出し、決定していくのかを確認する必要がある。例えば:

ETC はボードに直接提案する権限を有するのか。又は、一旦テクニカルコミッティの承認を得た上で提案をボードに挙げて承認を受けるのか。

SW: ETC は様々な案件を迅速のこなす為設置された。2015年度から始動している。通常ウィンター会議でテクニカルコミッティとジャッジコミッティの会議は開催されるが、各国代表者の入れ替わりが頻繁に起こる。またテクニカルとジャッジを兼任する者が会議の途中退席したりなどもあり、いずれの会議にも集中する事が出来ない。承認された通り、ETC はボード会議に提案事項を提出する事が出来る。

ENG: コミュニケーション不足が根本的な問題。もっとテクニカル代表者と頻繁にコミュニケーションをとるべき。

SW: 昨日エグゼクティブと ETC で行った会議でも、コミュニケーション方法について審議され、よりコミュニケーションを図る事となった。

#### ODE 審査の手順

ETC では世界選手権大会においては ODE を廃止すべきか検討した。2018年 WC においては継続して ODE を使用するが、大会審査員の事前選考を導入する。2018年大会終了後、再度 ETC において OED の必要性を審議する。

ENG: 大会中何回提出した ODE スコアを修正したのかに関する報告を ETC よりボードに提出して欲しい。

PdM: 了解。

ウィマー会長より ETC に対し謝辞があった。

## IBTF 報告

サンディ・ウィマーより IBTF 関連の報告があった。

### 2017年グランプリ

大会運営に関しては、特に問題はなかった。しかし出場選手は少なかった。

今回は WFNBT A の責任において大会を運営した（2015 年は WBTF の責任において）。WFNBT A は、IC 大会の追加大会とはしなくないので IC とグランプリ大会の期間を空けたいと望んだ。その為 IC を前倒しで実施した。多分これが今回の参加人数減少の問題の原因だろう。その他、出場者が少なかった原因はいくつかある。

- 高額なポレッチ宿泊施設
- 2017 年 3 月に同じくポレッチで WFNBT A ヨーロッパ大会が開催された
- WBTF の大会が 6 月と 7 月にあった

ENG : NBTA 出身の選手かこれほど少ない事に対し、何らかの説明はあったのか？

SW : 先方からの説明では、ポレッチ滞在は高額であり、既にヨーロッパの選手は既に一度、NBTA 大会でこの地を訪れている為、高額を支払って同じ所に来たくなかった、との事。

USA : 我々の代表選手は小規模の大会に失望している。今回の結果を受けて、2019 年グランプリ大会へのアメリカからの出場者は減少するだろう。

ENG : ラウンドごとのジャッジパネルが変わるのは反対。

SW : 審査関連の事案はジャッキー・スチュアートに報告すべき。

SW : WFNBT A が大会運営の担当者であり、責任者。クロアチアにとってもフラストレーションがたまる大会であった。WFNBT A、クロアチア、サンディで何度もネット会議をしながら準備をしてきたが、WFNBT A 担当者らは十分に準備を行わなかった。

### 2017年8月 WBTF/WFNBT A

始めの議題は定款の改定。後ほど改定内容を説明し、改定版の承認を求める。

USA : IBTF の議事録や議題は事前に国内で審議し、WBTF や IBTF に対して意見も述べたいので、早めに配布してほしい。

IBTF プロジェクトに関してはアメリカ国内で問題を抱えている。USTA は非営利法人であり、NBTA は会社法人。USTA としては IBTF プロジェクトを全面的に支援したいが、困難に直面している。その様な中 2017 年グランプリ大会出場者減で、より一層 IBTF の国内普及に困難を感じている。

2017 年グランプリ大会開催国のマリーナをはじめ、スタッフの皆様には心から感謝する。

JPN : アメリカの意見に賛成。両組織が一つとなってスポーツアコードへの加盟を目指す事が我々のゴール。我々の選手は世界中の選手との競技を楽しみにしてきたのに、今回の出場者数は残念。ボード全員が一体となり、目的達成へと進んでいきたい。またクロアチアのご苦勞にも感謝する。

FRA : その通り。失敗はあったが、そこから学び次回につなげる事が重要。

## 2017 インターナショナルカップ報告

マリーナ・ミヘルチッチがインターナショナルカップ概要を説明した。

ウィマー会長より参加者数の推移について説明があった。

- 2013: 800 名 (グループ種目)
- 2015: 北アメリカで実施
- 2017: 962 名 (A グループ)

## ヨーロピアンコミッション報告

ヨーロピアンコミッションを代表してニッキー・オニールが報告。

ヨーロピアンカップでのフリースタイル種目の規程を変更した。

- レベル A と B の導入
- オープンとエリートレベルの導入

ペアとチーム種目は変更無し。

2018 年ヨーロピアンカップはアイルランドで開催する。

コミッションでは継続してインターナショナル競技大会を開催する事で決定 (殆どの場合はオランダで開催)。選手に国際大会出場の機会を与える。各国内の大会スケジュールを考慮し、開催日程を決定する。

また WBTF ウィンター会議前にヨーロッパのテクニカル会議を開催する。11 月末に開催予定。会議開催を立候補する国は、ニクラスに申し出る事。

[添付 : 01 WBTF European Commission Minutes 2017-07-05.pdf].

## 2018 年世界選手権大会報告

カレン・キャマーより現状報告があった。

[添付 : 02 2018 World Championship Presentation.pdf].

## 新規審議事項

### 大会開催予定

2019年ヨーロッパ選手権大会開催国は未定。しかしオランダが検討中。オランダが開催無理の場合は、イングランドが開催を検討中。

スペインとイタリアから2020年ヨーロッパカップのオファーがあった。2018年ウィンター会議にて開催国を決定する。

2020年世界選手権大会開催国は未定。会長より開催立候補を確認したが、立候補する国は無かった。

エグゼクティブが大会開催入札手順を作成する。

### 新規加盟国報告

議題にもある様に、暫定加盟の申請が2カ国からあった。

- 1) ウクライナ・チアリーディング連盟 – Olena Plyeshakova, 会長  
現在は加盟料未納状態。ウクライナからの新たな組織も併せて検討中。
- 2) 南アフリカ – Baile Pulle

マーサ・ストリームの元選手。WBTFはバトントワーリング技術が高いので、加盟に積極的。彼は一時、南アフリカドラムメジャレット連盟の所属。この団体は一時期WBTFに加盟していたが、結局発展はなかった。その為その組織を去り、世界メジャレット連盟に加盟。しかし運営やバトン技術に不満を覚え、本物のバトン組織を目指して設立。現在現地でクリニックを開催し、バトンの普及に努めており、WBTF加盟申請の書類を作成中。

加盟検討中：

- 3) ボリビア - David Lino – コチャバンバ、ボリビア モデル・ディレクター

ボリビアのモデルエージェントがバトンプログラム導入に興味を示している。コチャバンバの女の子はバンドでバトンをするのが夢だが、バトンを導入するバンドは少ない。そこでバトントワラーを集めて始動し、演技披露をするチームを結成したい。

- 4) アジア

ジャン・ミッシェルがフィリピンでWBTF加盟協会主催のクリニックを開催した。WGIアジアの大会が開催された。その際、昨年サンディが出席したAsian Marching Band Confederation (AMBC)の総会が開催された。



**PBTA** はこの組織にも関わっており、ジャン・ミッシェルを招待した。シンガポール、タイ、台湾、インドネシア、マレーシア、中国等が出席した。

昨年サンディから **WBTF** の目的やルールについて説明があったので、今回ジャン・ミッシェルに対しても、バンドとのコラボが出来ないか検討された。参加国にはバトンに興味を示す国もあった。

技能ライセンスプログラムにも興味を示していた。**PBTA** が昨年実施したクリニックの様子をビデオで紹介した。タイ (**WGI** 加盟国) とインドネシアが興味を示した。中国も多少興味は示したが、やはりバンドがメイン。シンガポールは小さな国でバンドだけでも実施に問題があり、それ以上の種目を加えるのは無理。台湾はトライしなかった。

午後からマニラ市内観光に出発し、その後 **PBTA** の練習場をみんなで視察し、バトンの体験を行った。

## 5) 日本 報告

**2020** 年オリンピックゲーム開催地に東京が選ばれた。主催国は各国へのスポーツ普及事業を行う事が義務付けられている。日本政府は **IOC** の意向を受け、マイナースポーツの普及を目指し、**SFT** を立ち上げた。

**BTAJ** はまだ日本体育協会のメンバーではないが (スポーツ種目として認められるには加盟が必要)、**SFT** 加盟申請を行った。**SFT** は **BTAJ** が既にバトン普及の為の活動に取り組んでいる実績を認め、加盟を許可した。特に高く評価されたのは **WBTF** に無償提供した、**Standard Routines Program** と **Basic Skills Certification Program** である。

**BTAJ** としては、現在どのような形で世界の選手にこれらのプログラムが利用されているのかを **SFT** に示したい。国際大会で実施されている状況をビデオに収め、**SFT** に提出する事により、バトン普及の為の助成金を提供してくれるかもしれない。そこでトワールネイション時に、スタンダードルーティーンのクラスを実施し、ビデオ録画を行いたい。

**SFT** は **2020** 年東京オリンピックまでのプログラムであり、時間に制限がある。

ノート：この理由により IC 大会中、レベル A・B ファイナル終了後、デモンストレーション演技を実施する。多数の参加者を希望する。

## 6) インターナショナル・チア・ユニオン(ICU)

国際弁護士のジェフ・ベンツがバトントワーリング種目を守るために作成した同意書を元に ICU と継続的に話し合いを持っている。お互いの合意を目指し、数か月に渡って交渉を続けている。8 月末までには何とか最終段階へと持っていきたい。

4 月にオランダで開催された彼らの総会に招かれ、バトントワーリングに関するプレゼンテーションを行った。関心を持ってくれた事と思う。

メジャレッツが使用するポンポン種目を利用し、メジャレッツ団体は ICU への加盟を試みている。メジャレッツはもともとバトンを主たる手具として使用するの、もし加盟した場合バトントワーリング種目に関しては、WBTF が統括するのであり、ICU ではない事を明確に説明した。又世界選手権大会のビデオも紹介し、メジャレッツの違いを説明した。メジャレッツ関連団体は既にポンポン競技を実施しているが、WBTF はポンポン種目に関しては一切関わっていないし、今後も関わるつもりはない。

1 月にも報告したが、巨大なメジャレッツ組織の一つである World Majorette Federation が現在、ICU への加盟を望んでおり、WBTF の戦略にも大きな影響を与えている。なぜならスポーツアコードへの加盟を阻む事となるから。バトンを手具とする何らかのスポーツ競技がスポーツアコードへの加盟が認められると、その他のバトン組織は以後一切加盟を認められなくなる。そうなった場合、我々は ICU を通じてスポーツアコードに加盟しなければならなくなる。

従って、WBTF 加盟各国は自国のオリンピック委員会にロビー活動を行い、バトントワーリング種目の保護に努めてもらいたい。

上記を述べた上で、WBTF もメジャレッツ部門を創らなければ、ICU がメジャレッツを取り込んでしまう事となる。メジャレッツ人口は膨大で、何らかの方法でスポーツ競技として認識させようとしている。従って、WBTF もメジャレッツ部門を立ち上げる事を提案する。

フランス (FFSTB) がまず WBTF メジャレッツ大会を開催すると、立候補してくれた。

WBTF としては、ヨーロッパ圏内でメジャレッツとコラボレーションする事により以前から存在するヨーロッパ及び国際レベルのメジャレッツ組織への加盟を阻止する。ロシアの WBTF 加盟国協会のアンドレー・コクーリン会長によると、ヨーロッパ圏内では 3 つのメジャレッツ組織が「国際組織」として名乗りを上げている。1. WMF (World Majorettes Federation) はクロアチアにあり 21 の加盟国を有する。2. IMSF (International Majorette Sport Federation) はチェコにあり 16 の加盟国を有する。3. NBTA Europe は 13 の加盟国を有する。

いくつかの例：

新しいメジャレッツ組織がクロアチアで設立された。会長は Elizabeta Mikelj、オパティヤのウィンター会議にはゲストとして出席していた。この組織で、クロアチア内だけでも 5 つ目のメジャレッツ組織となる。

今年初めて、9月8日～10日にヨーロッパカップ（メジャレッツ）がクロアチアのブナンで開催される事となった。

スロベニアでは現在4つのメジャレッツ組織が存在し、WBTF加盟協会は今後これらのメジャレッツ組織を導き、WBTFへの加盟を促す。WBTFがメジャレッツ部門を新設する事により、WBTFの傘下に入れるような組織づくりを手助けしていく。

ポレッチのインターナショナルカップ中に以下のメンバーがタスクフォースとして話しあい、WBTFとしての指針を示す。

WBTF Vice President	Jean Patrick Rousset
Slovenia	Nada Skuk
Croatia	Marina Milhecic'
Russia	Andrey Kokoulin
England	Nicky O'Neil
The Netherlands	Martin Stevens
Kazakhstan	Alfiya Kalmaganbetova
WBTF Technical Director	Paola DeMarchi
WBTF Coaches Chair	Jean Michel Ruelle
WBTF Judges Chair	Jackie Stewart
WBTF Secretary	Jeff Johnson

## WBTF ロゴの使用法

ウィマー会長からの提案

次の通り WBTF ロゴの使用を許可する：

加盟国協会の公式ウェブサイト上：

WBTF ロゴはサイト内1か所のみでの使用とする。(WBTF ロゴには会員種別を記載する事、正会員、準会員、暫定会員など)

加盟国協会の公式出版物上：

WBTF ロゴは出版物内1か所のみでの使用とする。(WBTF ロゴには会員種別を記載する事、正会員、準会員、暫定会員など)

加盟国の公式イベント：

WBTF ロゴは開場内1か所のみでの使用とする。(WBTF ロゴには会員種別を記載する事、正会員、準会員、暫定会員など)

WBTF の後援又は許可なく、国内大会での WBTF 旗又はバナーは使用しない。

USA：ウェブのフッターに使用する事は可能か？（全頁のフッター部分に掲示される）

Secretary Johnson：トップページの'About Us'部分での使用が好ましい。

JPN：WBTF で会員種別のロゴを作成できないか。

FRA: FFSTB では本部用のロゴと、所属クラブで使用可能なロゴの 2 種類が存在する。

**ボード動議 #8 – WBTF ロゴの使用法**

可決

上記の通り、WBTF ロゴ使用法を定める。

発議: USA

セカンド: Spain

賛成: 16 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対: 0

棄権: 0

**ETC からの提案事項**

ETC 提案 #1 は、USA からの対抗提案により取り下げとなった。

ETC 提案 #2 が、新たに提案された。

ウィンター会議でさらに検討が必要な為、ETC 提案 #1 はウィンター会議まで保留とする。

**ボード動議 #9 – ETC 提案 #1**

可決

ETC 提案 #1 は 2018 年ウィンター会議まで保留とする。

発議: USA

セカンド: Croatia

賛成: 16 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対: 0

棄権: 0

**IBTF 定款の改訂**

ウィマー会長より、先日 IBTF マネジメントコミッティで検討された定款改定案の説明があった。

[添付資料: 03 IBTF Statutes-feb 21 17 jgb version clean with Aug 4 revisions.pdf].

**ボード動議 #10 – IBTF 定款**

可決

提出された IBTF 定款改定を承認する。

発議: Scotland

セカンド: Ireland

賛成: 15 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland)

反対: 0

棄権: 1 (USA)

## ポリシーマニュアル改訂

ウィマー会長よりコンチネンタル関連に関する WBTF マニュアル改訂の提案があった。  
(改定内容は太文字で記載)

### コミッション会議

1. 全てのコンチネンタル会議は WBTF ウィンター**及びサマー会議**にて最低 2 時間開催する。
2. コンチネンタル議長は WBTF エグゼクティブボードに対し、年 4 回報告をする。
  - a. 内 1 回は WBTF ウィンター**及びサマー会議**に出席し報告する。
  - b. 四半期ごとに年 3 度、ネット会議にて報告する。
3. 大陸別大会やクリニックを開催する際は、追加で 1 回コンチネンタル会議を開催する。この会議には、加盟国代表 1 名及び 4 名のコンチネンタルコミッションのエグゼクティブが出席する。  
その年に大会、クリニック又はコンベンションが予定されていない場合は、会議費軽減を考慮し開催する。(ネットカンファレンスなどを利用する)
4. **コミッションの経費を軽減させる為**、コンチネンタルテクニカル議長及びジャッジ議長はコミッションに加盟する各国協会のテクニカル及びジャッジコミッティ代表から選出する。**但し各議長選出に関してはコミッションが独自の判断で選出する事が出来るが、別途議長を選出する場合、そのコストはコミッションが負担するものとする。**

### ボード動議 #11 – ポリシーマニュアル改訂、Section 2

可決

ポリシー&プロシージャマニュアル Section 2 を提案通り承認する。

発議: USA

セカンド: Ireland

賛成: 16 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対: 0

棄権: 0

ウィマー会長より、選手出場資格に関する WBTF ポリシーマニュアル改訂が提案された。  
(改定内容は太文字で記載)

### 選手出場資格:

- 1) 選手権大会: 世界選手権、ヨーロッパ選手権
  - a. 選手は代表する**国**の市民権を有していなければならない。
  - b. 複数の市民権を有する選手は、どの**国**の代表となるかを一つ選択しなければならない。代表する国を決定した後、4 年間は変更する事が出来ない。
  - c. 加盟国協会は追加で、独自の規程を定める事が出来る。
- 2) カップ大会: インターナショナルカップ、ヨーロッパカップ、パンパシフィックカップ
  - a. 選手は代表する**国**の市民権を有していなければならない。
  - b. 複数の市民権を有する選手は、どの**国**の代表となるかを一つ選択しなければならない。代表する国を決定した後、4 年間は変更する事が出来ない。

c. 加盟国協会は追加で、独自の規程を定める事が出来る

- 3) 選手が代表する国を選択した場合、WBTF が開催する全ての大会において 4 年間その規定が適用される。
- 4) エントリー時には必ず市民権証明書を添付する。
- 5) 選手本人が滞在している国とは別の国の代表として出場する際、必ず国籍宣誓書を WBTF に提出しなければならない。
- 6) 市民権に関し虚偽の申告を行った場合、4 年間の WBTF 主催大会への出場停止処分を課す。

**確認事項:**

‘市民権’又は‘在住資格’に関しては**各国**政府が定める定義に基づく。

**ボード動議 #12 – ポリシーマニュアル改訂, Section 5**

可決

ポリシーマニュアル Section 5 を提案通り承認する。

発議: USA

セカンド: Russia

賛成: 16 (Australia, Canada, Croatia, England, France, Ireland, Italy, Japan, Netherlands, Russia, Scotland, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, USA)

反対: 0

棄権: 0

**ボード動議 #13 – 閉会**

可決

2017 年サマーWBTF ボード会議を閉会する。

発議: USA

セカンド: Scotland

## 臨時ボード会議

2018年ウィンター会議までは待てないので、インターナショナルカップジュニア女子部門に関し審議した。

2017年8月13日（日）午前9時、ウィマー会長が開会を宣言した。

出席国：Australia, Canada, Czech Republic (CFMT), Czech Republic (CMTO), France, Italy, Japan, Netherlands, Scotland, Slovenia, Switzerland, USA

### ボード動議 #14 – ジュニア女子部門の分割

セカンド無し

現在のジュニア女子部門 (12-17 歳) をジュニア 1 部門 (12-14 歳) とジュニア 2 部門 (15-17 歳) に分割する。

- 各国よりジュニア 1 部門 3 名、ジュニア 2 部門 6 名を選出する事が出来る。

発議: USA

セカンド: 無し

動議にセカンドが無かった為、廃案。

NET: なぜジュニア 1 部門が 3 名、2 部門が 6 名なのか。

USA: ジュニア 1・2 部門とも 6 名ずつ出場した場合、2017 年と同様に膨大なジュニア部門となってしまう。

SCO: ジュニア 2 部門に 6 名出場しても問題は解決しないのでは？

ITA: 各部門 3 名ずつなら良いのでは。

JPN: 毎回 WBTF が年齢区分を変更する度に、国内大会運営に大きな影響を与える。ジュニア 1 部門に 6 名は良いと思うが、12 歳で大会に出場するには若すぎる。日本としては、現状年齢規定での実施を希望する。

ITA: レベル A と B のソロ及び AT のみ、ジュニア 1 部門 3 名、2 部門 3 名の出場を提案する。エリート部門及び他の種目に関しては変更の必要はない。

NET: 十分提案内容を分析する時間も無い。危険である。

ITA: しかしウィンター会議まで決定を延ばすと、ヨーロピアンカップにも影響が出る。

ボード動議 #15 – 女子ジュニア部門の分割

**=後日この規定は変更となる! =**

可決

現在のジュニア部門 (12-17 歳) をジュニア 1 部門 (12-14 歳) とジュニア 2 部門 (15-17 歳) に分割する。

- 各国よりジュニア 1 部門・2 部門とも 3 名ずつ選出する事が出来る。
- この分割はレベル A 及び B のみで、エリート部門の変更はない。
- この規定は AT とソロ種目のみに適用する。2 バトン、3 バトン、AP の変更はない。

発議: ITA

セカンド: FRA

賛成: 6 (Australia, France, Italy, Scotland, Slovenia, Switzerland)

反対 : : 3 (Canada, Netherlands, USA)

棄権: 1 (Japan)

臨時ボード会議 閉会

**追記事項:** サマー会議後、ETC からの提案により、インターナショナルカップにおける女子ジュニア部門分割に関しオンライン投票が行われた。

**オンライン投票 – 女子ジュニア部門の分割 2017 年 9 月 9 日最終決定**

可決

全ての女子部門 (レベル B、A、エリート部門) は次の通りとする

Junior One: 12-14 歳

Junior Two: 15 -17 歳

各国はジュニア 1 部門より 3 名、ジュニア 2 部門より 6 名選手を選出する。

提案者: ETC

賛成: 13 (Australia, Belgium, Canada, Croatia, Germany, Ireland, Japan, Norway, Russia, Scotland, Spain, Sweden, USA)

反対: 5 (England, France, Italy, Switzerland, The Netherlands)

棄権: 0

欠席: 1 (Slovenia)

Respectfully Submitted:

Jeff Johnson

WBTF Secretary